



## 室内環境学会理事長就任にあたって

大同大学 山口 一

会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。この度、会員の皆様方のご支援により、室内環境学会の理事長を務めることになりました山口 一です。私にとって身に余る光栄と感じる次第です。理事長就任にあたり、これからの学会運営なども踏まえ、ご挨拶させていただきたいと存じます。

本学会は、1994年に室内環境研究会としてスタートし、1998年に室内環境学会、2013年に一般社団法人室内環境学会となり、正会員、法人会員、学生会員、シニア会員をあわせると500名規模の会員数を有する学会です。前理事長の東海大学の関根嘉香先生のご指導のもと、学術大会、学会誌や事業活動などの充実により、学術的にも、財政的状況も、順調な運営傾向にあります。今後もこれまでの優れた活動を引き継ぎ、変動する世の中の動向を鑑みながら、さらなる学会の発展に努めたい所存です。その中で、特に、本学会が関連する社会問題の解決、学術活動のより一層の推進と室内環境学の地位向上、会員サービスの充実、グローバル化への対応などを図って参りたいと存じます。

学会活動の根幹となる活動では、化学物質分科会、燃焼器具分科会、微生物分科会、微粒子分科会、災害時室内環境分科会、環境過敏症分科会の6分科会にて様々な社会問題解決に取り組んでおります。昨年は新たに、近々の問題である新型コロナウイルスに対し、「室内環境における新型コロナウイルス感染対策WG」が発足し、積極的な活動が開始されました。本学会のバックグラウンドは、医学、薬学、建築学、農学、化学、生物学など多岐にわたっております。これからも重要な社会問題解決を含め、他学会とは一味違った「室内環境」の視点からの学術活動を進めて参りたいと思います。一般にオフィスや家庭など室内で過ごす割合は1日の中で90%以上であり、コロナ禍において在宅勤務や遠隔授業などでその割合はさらに増加し、快適で健康的な室内環境はますます重要視されています。従来の物理要因（温熱、光、音など）、生物要因（微生物、微小生物、ウィルス、花粉など）、化学要因（シックハウス原因物質、微粒子など）に加え、ヒトの生理的・心理的要因を配慮した総合的な検討も重要であると考えています。

現在、正会員5,000円、学生会員1,000円、法人会員30,000円（1口）、シニア会員3,000円であり、本学会発足当時の学会費を維持しています。年3回発行される学会誌「室内環境」の投稿論文はJ-Stageに公開され、日本学術会議協力学術研究団体に登録されていることから、投稿論文は博士号の学位申請に良く利用されております。さらに学術大会の充実、定期的な講演会の開催など様々な活動を通じ、充実した内容を学会員の皆様へ

提供してきました。他学会においても財政的に厳しい時代となっておりますが、本学会では会員サービスの向上を目指しつつ、今後も学会費は現状を維持して参りたいと考えております。本学会の各種の活動については、色々とお不便をおかけしている面があるかと思いますが、会員の皆様のご支援の上に成り立っておりますので、今後共よろしくお願いたします。既に、ホームページだけでなく、FacebookなどのSNSを利用した情報発信を行っていますが、さらなるツールの活用も進めていきたいと思っております。コロナ禍においてTeamsやZoomなどのweb会議ツールが普及してきましたが、時間的・地理的に余裕がない学会員の皆さんにも、必要時に無理なく参加できるシステムの構築も検討して参ります。次に、上述した学術大会や定期的な講演会の開催の推進、学会誌の発行や委員会・分科会・WGの活動などに加え、室内環境に関連する書籍の出版、東北・関西・九州支部への積極的な活動支援を実施し、産・官・学との連携強化を目指します。今までも法人会員のみならず多くの企業様にご参加頂いておりますが、さらなる展開を目指し、室内環境学会標準法の制定、本学会の学会資源をご活用頂ける研究助成制度も含め、色々なご要望をお寄せ頂ければ幸いです。

グローバル化への対応については、引き続きMOUに基づく日韓台室内環境学会の活動を推進して参ります。一昨年の沖縄大会では、日本、台湾、韓国と持ち回りの国際シンポジウムの第3回目の日本開催が実現しました。今後は、上記の三国ばかりでなく他国を含めた学術交流を検討します。

様々な分野の皆様が参加される室内環境学会において、会員の皆様が活動しやすい学会運営を目指して参ります。そのための学会運営には、皆様方のご協力が是非必要です。皆様からの積極的なご意見をお待ちしております。これからの二年間、どうぞよろしくお願いたします。